

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470103106
法人名	つる・かめ共和国株式会社
事業所名	つる・かめ共和国 大正橋
所在地 (電話番号)	広島県広島市南区西蟹屋一丁目1番29号 (電 話) 082-567-6851

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成20年5月21日	評価確定日	平成20年6月12日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年11月1日	
ユニット数	1 ユニット	9人
職員数	9 人	常勤 9人(専任7人,兼務2人), 常勤換算 8.7人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独	新築／○改築
建物構造	鉄筋コンクリート造 地上5階建2階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000・55,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 70 円

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9人	男性	6人	女性	3人
要介護1	2人	要介護2	1人		
要介護3	5人	要介護4	1人		
要介護5	0人	要支援2	0人		
年齢	平均 85.7 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高杉外科整形外科医院, 河村歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「つる・かめ共和国 大正橋」は、広島駅近くの市街地に位置する5階建ての2階部分にある都市型のホームです。地域活動の活発な区域に立地しているため、早くから地域との交流がすすめられています。併設のデイサービス事業所と協働し、ホームが閉ざされた場所とならないよう、地域の理解や協力を得るための積極的な働きかけが行われています。開設して5年余りが経過しますが、地域行事へ積極的に参加したり、ホームの機能を地域に還元したりすることで、着実に地域に溶け込むための取り組みが行われています。このことは、本年11月の開催で、5回を迎えるホーム恒例の行事「つる・かめ祭り」が、地域の祭りとして定着し、毎年大勢の参加が得られる一大イベントになっていることからもうかがわれます。

また、ホームの運営方針に明文化されているように、「笑い」のある生活を目標として掲げ、利用者を人生の大先輩として敬うとともに、利用者がこれまで培ってきた技術や知恵を職員が学ぶ機会づくりに取り組まれています。利用者一人ひとりの持つ力を引き出しながら、暮らしの中で「できること」や「得意なこと」が発揮できるよう場面づくりを行うことで、達成感を感じられるよう支援されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価については、結果を運営推進会議で報告するとともに、課題として明らかにされています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を通して、職員が初心に戻り、自ら提供するサービスについて考えるきっかけとなるよう取り組まれています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域に密着したホームづくりに様々な立場の人の知恵が活かされるよう、2か月ごとに会議が開催されています。会議では、ホームの取り組み、計画について報告するとともに、家族からの提案や介護に関する社会問題等について積極的な意見交換が行われています。また、議事録を整備するとともに、欠席者や区担当者へ報告し、情報の共有に取り組まれています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2か月ごとに開催される運営推進会議に、必ず家族の参加が得られており、家族から出された意見が運営に反映されています。また、「家族の支援・協力なしでは、ホームの運営は成り立たない」という運営者の考えのもと、年1回の家族会や日々の訪問時に、家族が意見を伝えやすいよう雰囲気づくりに取り組まれています。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが閉ざされた環境とならないよう地域に溶け込める機会づくりに取り組まれており、地域行事への参加や地元保育園児との定期的な交流を通して、地域の人との交流が深められています。また、女性会など様々なボランティアの受け入れを行うなど、地域の資源を積極的にホームの暮らしに取り入れられています。これらの取り組みにより、近所の人が遊びに来るなど、地域に開かれたホームとして住民の理解が得られつつあります。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「介護する側」「介護される側」という関係ではなく、地域との関わりを通して「生涯現役」を貫いていただきたいという思いが込められたホーム独自の理念、運営方針が掲げられています。これをもとに「利用者を人生の大先輩として敬い、持っておられる知恵や力が日々の暮らしの中で活かされる支援」を目標として取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の暮らしが運営理念に沿ったものとなるよう、管理者を中心として職員全員で取り組む姿勢があります。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設から5年余りが経過しますが、積極的に地域との関係づくりをすすめ、ホームが閉ざされた環境とならないよう努められています。町内の喫茶店、祭り、運動会、新年宴会等にホームから出かけたり、保育園児の定期訪問、近所の人が遊びに来るなど、日常的に地域住民との交流が行われています。また、女性会など様々なボランティアの受け入れを行うなど、地域の資源を積極的にホームの暮らしに取り入れられています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を通して、職員が初心に戻り、自ら提供するサービスについて考えるきっかけとなるよう取り組まれています。評価結果については、運営推進会議で報告するとともに、今後のホーム運営に活用する体制が整えられています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に密着したホームづくりに様々な立場の人の知恵が活かされるよう、2か月ごとに会議が開催されており、議事録も整備されています。会議では、ホームの取り組み、計画について報告するとともに、家族からの提案や介護に関する社会問題等について積極的な意見交換が行われています。例えば、出された意見をもとに、ベッド柵に布を巻くなどの事故防止策を直ちに行ったり、災害時における地域の救護体制づくりについて話し合うなど、会議内容が具体的にサービスの質向上に反映されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に区担当者の参加が得られており、欠席の場合にも管理者が報告を兼ねて議事録を直接持参するなど情報の共有に取り組まれています。また、区担当課の依頼による大学生の見学研修についても、利用者の状況を考慮したうえで受け入れを行うなど、地域の福祉サービスの質向上に取り組まれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「介護は職員にもできるが、親孝行は家族にしかできない」というホームの思いが家族に浸透しており、家族の訪問が絶えずあるため、必要な報告、相談はその都度個々の状況に合わせて行われています。年4回発行される「つる・かめ便り」に、ホームでの様子を写真入りで掲載し、家族に利用者の暮らしぶりが伝わるよう工夫したり、誕生日には、職員から利用者へ手づくりのフォトアルバムを贈るなど、細やかな配慮により家族の安心感が得られるよう取り組まれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月ごとに開催される運営推進会議に、必ず家族の参加が得られており、家族から出された意見が運営に活かされています。「家族の支援・協力なしでは、ホームの運営は成り立たない」という運営者の考えのもと、年1回家族会を開催するなど、家族が意見を伝えやすい機会づくり、雰囲気づくりに取り組まれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職等、職員が代わる場合はありますが、新規担当者には利用者とのコミュニケーション、なじみの関係づくりを最優先させるなど、利用者への影響に配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数や勤務の都合で、全職員が計画的に研修を受講できる体制までにはなっていませんが、ミーティング等で、研修内容を報告する機会を設けるなど、研修で得た知識や技術が全職員で共有できるよう取り組まれています。また、ホームとして介護関連の書籍を定期購読するなど、働きながら学ぶ環境づくりも行われています。ホーム全体のケアに対する意識向上のための取り組みにより、自発的に学び資格を取得した職員もおられます。		外部研修への全職員の参加機会の確保については、職員数や勤務の都合上、困難な面もありますが、勤務体制の工夫等により参加機会を増やすなど、職員の資質向上に向けてさらにステップアップした取り組みとされることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業種団体等の広域ネットワークに加入するなど、同業者との交流によるメリットについて十分理解されています。現在、近隣のホームとの交流について計画をすすめられています。		同業者と交流する機会を捉えたネットワークづくりに努められ、お互いにサービスの質向上に向けて取り組まれることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用にあたっては、体験入居を勧められています。また、利用開始時には、本人・家族の思いを十分に配慮したうえで、職員のサポートにより安心して過ごせる環境づくりが行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの運営指針にもとづき、「笑い」のある生活を目標として取り組まれています。また、「利用者は人生の大先輩であり、介護者は子ども・孫であるという位置関係」を保ち、「利用者にお預けし、大いに頼る」ことで、利用者一人ひとりの持つ力が様々な場面で活かされ、利用者の満足感が得られるよう取り組まれています。さらに、職員が利用者に日々感謝の気持ちを伝えるなど、お互いに支えあう関係づくりに取り組まれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴や「好きなこと」「やりたいこと」「得意なこと」「苦手なこと」等の把握に努められており、それらをもとに利用者の持つ力が、様々な場面で発揮できるよう取り組むなど、日々の暮らしに満足感が得られるよう支援されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向、思いを汲み取るとともに、利用者の持つ力を活かしながら落ち着いた生活が支援できるよう、関係者と話し合いのもと、利用者本位の介護計画が立てられています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しの際には、利用者を中心として家族、運営者、管理者、ケアマネジャー、介護職員等で話し合いを行い、現状に即した介護計画となるよう取り組まれています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス事業所と共催し、年1回(11月)「つる・かめ祭り」が開催されており、家族、地域住民の参加が多数得られています。「つる・かめ祭り」では、バザー、模擬店の他、「無料相談コーナー」が設けられており、健康相談や介護相談等に職員が応じるなど、事業所の持つ機能を利用者・家族・地域住民に最大限に活かせるよう取り組まれています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診が行われている他、利用者の状態の変化に応じて、昼夜を問わず適切な医療が提供できるよう、提携病院医師との協力体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常時、医療が必要になった場合については、ホームでの対応が困難という現状もありますが、「最期まで、つる・かめで」という家族の希望もあり、ホームとして対応可能な範囲で最大の支援に取り組んだ事例をお持ちです。現在は、利用者や家族のニーズに応じて、ケースバイケースでの対応をとる方針となっています。		重度化した場合や終末期のあり方については、医療との連携が不可欠ですが、「最期は長年住み慣れたホームで」という利用者・家族の気持ちを受け止め、利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、ホームとしての対応や方針について検討をすすめられることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念に明文化されているように、「利用者は人生の大先輩」という意識が職員に十分浸透しており、言葉かけにも配慮されています。また、年4回発行の「つる・かめ便り」には、利用者の写真が多数掲載されていますが、事前に掲載についての了解が得られており、写真に少しぼかしを加える等の配慮を行いながら、個人情報の保護を徹底されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての日課はありますが、利用者一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて支援が優先されています。限られた職員体制の中であってもホームの都合や決まりごとを無理強いすることなく、その人らしい暮らしやペースを尊重するよう努められています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族の協力も得ながら、利用者のできる力を活かした食事づくりに取り組まれています。食べる楽しみは、特に大切なことと考えられており、デザートなどにも気配りが行われている他、持病のため食事制限のある人には、見た目ですストレスを感じないよう盛り付けを工夫されています。また、できる限り自分の力で食べてもらいたいとの思いから、食べこぼし等がある場合にも自分の箸で食事を楽しめるよう支援されており、訪問時には、好物を口に運ばれる利用者の姿が見受けられました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの状況に応じた入浴支援が行えるようシャワーチェアなど必要な用具が備えられています。入浴時には、歌を歌われたり、お風呂でないと出来ないような話も飛び出すなど、入浴が利用者、職員にとって大変よいコミュニケーションの時間となっています。また、見たいテレビがある利用者には、時間を見計らって入浴していただく等の配慮も行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	釣りの好きな利用者に、献立用に活きのいい魚を選んでもらうなど、利用者一人ひとりの職歴や趣味が活かせる場面づくりに取り組まれており、「介護される生活」とならないよう、利用者の意識の向上や気力の充実に向けて様々な支援が行われています。また、「つる・かめ祭り」に向けてバザー作品の製作が行われている他、書画コンクールへ応募した利用者の作品が受賞するなど、一人ひとりの力が発揮される機会づくりを行うとともに、目的を持って取り組むきっかけづくりを行うことで、利用者の自信の回復へとつながられています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	祭り、運動会、とんど、いのこ、もちつき等の地域行事へ積極的に参加されている他、手紙の投函や買い物など目的をもった外出の機会が頻繁に得られるよう心がけられています。また、併設のデイサービスへ通う利用者の支援を行うなど、一人ひとりの希望やニーズに合わせた支援が行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前は道路、側には川が流れる市街地に立地しているということもあり、利用者の安全に配慮し玄関の鍵はかけられています。職員は、利用者の様子を観察するとともに、外出したいという思いを汲みとり、見守りや外出に同行することで、施錠による閉塞感を感じないように配慮されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設のデイサービスと合同で自衛消防訓練が実施されている他、3か月に1回、火災を想定した再確認の機会が設けられています。災害時の救援について、運営推進会議で話し合いを行うなど、いざという場合に町内会の協力が得られるよう働きかけが行われています。		災害発生時には、まず町内会長に通報し支援・協力を得るという体制が運営推進会議で話し合われています。あらゆる災害を想定したホームとしての体制づくりを行うとともに、地域からの具体的救援の方法などについても日頃から把握、検討していただくことが望まれます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べることの楽しみがいつまでも続くよう、嗜好や食事の硬さ、味付け、栄養バランス、飲み込みの様子などを考慮しながら食事が提供されています。また、体重測定などの健康チェックも定期的の実施し、利用者の健康を管理されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を中心に左右に居室があり、食事時には食欲をそそる匂いがフロア全体に充満し、家庭的な雰囲気です。また、ホームの菜園で、いろいろな種類の野菜や花がプランター栽培されるなど、季節感あふれる雰囲気づくりが行われています。室内には、一人ひとりの状態に応じた座り心地のよい椅子、階段には昇降機など、利用者が暮らしやすいよう配慮されています。壁には、これまでの入居者のスナップ写真が飾られており、仲間との縁をいつまでも大切にしたいという思いが伝わりました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって一番落ち着く場所となるよう、本人・家族と相談しながら居室づくりが行われています。使い慣れたベッドや愛着のある家具、誕生日に毎年ホームから贈られるお祝いメッセージ入りの色紙や記念アルバムなど温かみのある品々が飾られています。居室の入り口には、表札代わりに写真を貼るなど、利用者が自らの居室を認識できるよう工夫されています。また、歩行練習用バーが持ち込まれている居室や大きな仏壇を置いた居室では月命日のお参りが行われるなど、利用者一人ひとりの習慣や思いを大切に環境づくりに取り組まれています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 つる・かめ共和国 大正橋

評価年月日 平成 20 年 5 月 1 日

記入年月日 平成 20 年 5 月 4 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 施設長 氏名 北枝 敬一

記入者 職 管理者 氏名 沖川 香代

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	当施設の理念の基本は、ご利用者に生涯現役を目指していただくこと。地域の人々と接触することにより、ご利用者にさまざまな役割が発生してきますので、地域密着を積極的に押し進めている。	○	年に一回の当施設の“つる・かめ祭り”のバザーなどの運営を、ご利用者と地域の方々と介護職員で話し合い相談しながら進めている。また地域の方々と日本舞踊・三味線演奏会などを楽しく開催している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の話し合いや、月一回の全体会議などで、ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台を提供するなど、理念の共有に努めていますが、十分とはいえない。	○	食事の下ごしらえ、洗濯物のたたみ、家庭菜園の管理、施設内の清掃、食材など買い物同行、他施設の訪問など、試行錯誤を繰り返し、柔軟な対応にて取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	当施設の理念は、家族会や運営推進会議や年四回作成している、つる・かめ便りなどで、その都度ご家族や地域の人々に理解していただけるよう説明している。	○	さらに近所の保育園児との交流など、出来ることから取り組んでいる。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご利用者との散歩の時など近所の方によく声掛けや、また声を掛けられることもあります。また町内会のたまり場のような喫茶店にもご利用者と同行し、コミュニケーションを図っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りや、運動会・新年宴会などに積極的に参加しており、またご近所の方もとときどき当施設に遊びに来ていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の独居高齢者の安否確認を職員交代で、時々電話や訪問声掛けを行っている。 特に、土日や盆休みや正月休みなどの安否確認を実施している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	他の施設の優れているところなどを教えていただき、また運営者・介護職員が初心に帰るきっかけづくりにもなっていると考えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センターの方々よりさまざまな提案を頂き、当施設のミーティングで話し合い、出来ることを実行している。たとえば近所の幼稚園児の訪問や災害時にご利用者の救出依頼など		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者さんも大変忙しいようで、各種届出や運営推進会議開催報告以外にはこれといった行き来の機会がない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在まで成年後見制度が必要になられた利用者はいませんが、社会福祉協議会の「かけはし」などがあることは理解している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間で「虐待はしない」と徹底できている。 ミーティングなどで虐待につながる問題点や困っていること、悩み等をオープンに話し、解決・防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族との面談時に契約書関係も説明し、質問や要望などを聞き出せるよう努めている。 また介護計画書作成時に、ご家族の思いを聞かせていただくための記入欄を設けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	当施設は365日24時間いつでも良いので、頻繁にご家族に来ていただけるよう、常に促している。またほぼ全員のご利用者に運営推進会議に出ていただき、意見を述べていただいている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	当施設は交通の便の良い場所にあり、ご家族が頻繁に来られているので、その都度報告させていただいている。また介護計画作成時にも詳しくお話している。	○	最近運営推進会議の議事録の写しをご家族にお渡ししている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から運営に関する苦情は、今現在のところありませんが、気軽にご家族が職員に意見が出していただける雰囲気作りに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回の全体ミーティング以外に、日々のコミュニケーションで聞く機会を持つようにしている。	○	職員からの施設運営に関する意見は、当施設の理念にかなった、前向きなものに関しては、積極的に取り入れて行きたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	現在の人員配置で、日々の業務をこなすのが精一杯の状況である。	○	花見や家族会の行事で人手が要るときは、ボランティアで非番の職員にも出てもらい、まかなっている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	これは当施設にとって大きな問題であり、良い方法があれば現場で指導していただき、ぜひ教えていただきたい事柄である。机上の空論では機能しないと感じている。	○	一般的には運営者と職員間には大小の差はあれ、お互いに不満が蓄積する傾向はある。一流企業などの労働組合もその現れである。今後とも、真剣にお互いが努力する必要があると考えている。
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	これは非常に重要なことで、ミーティングや日々の業務の中などで行っていますが、育つ人と育たない人がいることも事実で、育つ人を募集することが重要であると感じている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	以前に他施設と短期間での職員交換など試みましたが、勤務時間(シフト)や交通の便などが問題になり、実現していない。	○	機会があればぜひ実現したいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	このことも非常に重要なことであると考えています。まずすぐ出来ることで、話し方・声のトーン等の気配りに勤めている。	○	結論は、それぞれの介護職員が、プラス思考で生活することであると考えていますが、すぐに結果が出る事柄ではなく、長期目標になると考えている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	今行っていることが十分とは思いませんが、これも向上できる人と出来ない人に分かれてしまい、向上できる人を募集する以外になかなか解決法は見つからないと感じている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居契約までに、今日までの生活スタイルや心配事、嗜好や嫌なこと・好きなことなどを、雑談の中から聞き出し、また体験入居もしていただき、満足に近づけるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	体験訪問や面接に来られたとき、ご家族の思いを直接職員に話していただいている。 またご家族の不安や困っていることなどを聞き出し、少しでも満足していただけるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設に連絡してこられるときは、家族での介護が限界と感じておられる場合が大部分であり、入所を前提として、安心・満足を提供できるよう、努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	当施設では、まず2～3日の体験入居を勧めており、ご利用者に徐々に慣れていただけるよう、努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当施設の理念でもあります。ご利用者は人生の大先輩であり、若輩である我々介護者は、子や孫のような位置関係を貫くことである、ということを目指している。	○	生涯現役とは、お父様・お母様・おじい様おばあ様を演じきっていただくこと。 ご利用者に適切なことはお願いし、おおいに頼ること、を目指している。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	当施設はご家族に頻繁に来ていただいています。が、その際自発的にご家族が食器洗いをされたり、食事の準備を手伝ったりされている。 ご利用者はこの風景を大変喜ばれている。	○	当施設で、ご家族に申し上げることは、我々は介護・介助は提供させていただきますが、親孝行はご家族しか出来ませんよ、とお話している。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	当施設に入居されていることが、家族に精神的また時間的余裕も生まれ、そのことでご本人とご家族との関係が良くなっていると、確信している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の知人や県外のご親戚などの訪問も、ご利用者が拒否されない限り、自由に訪問していただいている。またご利用者が昔から通っておられた理髪店への外出支援なども行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	たった 9 人のご利用者でも、共同生活ですからたまには口論もあります。その時後に心の傷が残らない程度に介護職員が介在する程度です。そのようなことにより、少しずつ連帯感が生まれてきているように感じている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在まで当施設を退所された方は、老人保健施設や病院に移転されたため、その後の関係継続はありませんが、必要とされる場合は当然おつき合いを大切にしていこうと考えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	たった 9 名のご利用者でも、好き・嫌い・興味のあることはばらばらであり、それぞれのご利用者の思いを大切にして、介護者が援助しながら、生活していただいていると感じている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者やご家族から生活暦などを、機会あるごとに詳しく聞きだし、活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	当施設は、ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台を提供することであると考え、可能なことから実行している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	管理者・ケアマネ・介護職員間によく話し合い、ご利用者の情報を集めて、お一人お一人に適した介護計画が作成できていると考えている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族・運営者・管理者・ケアマネ・介護職員間によく話し合い、必要があれば見直しも行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護日報に記録し、情報の共有化を促し、介護の実践や介護計画に活かしている。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員には地域の行事へのご利用者の参加承諾やボランティアさんの紹介依頼など、消防には防火・避難訓練や救急救命講習などを依頼している。 幼稚園などには園児の訪問依頼などを行っている。 またさまざまなボランティアさんに来ていただいている。		
----	---	--	--	--

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要とされるご利用者に、訪問理容・訪問歯科を利用していただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に一回の運営推進会議に参加していただき、アドバイスをいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	当施設のかかりつけ医は、24 時間体制で往診していただいている。 その節は、必ず事前にご家族の承諾を得ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	すべてかかりつけ医の指示で、ご家族の承諾後に、総合病院などに診察・治療のために介護職員が同行している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	基本的にはかかりつけ医に相談している。 しかし、同じ建物内にデイサービスがあるため、その看護師の意見を聞くこともある。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご利用者の入院時は、何度か様子を伺いに見舞いに行き、退院が決まれば、どのようなケアが必要なのかを、病院職員やご家族と打ち合わせをしている。	○	今後ご利用者の入院などが起きた場合は、ご利用者のストレス軽減のためにも、見舞いや情報交換を必要に応じて行なっている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	現在そのような状態のご利用者はいませんが、病状の悪化、著しい機能低下が見られたときは、かかりつけ医とご利用者またご家族及び運営者・管理者・ケアマネ・介護職員で今後の方針を話しあいたいと思っている。	○	過去にご家族より「最後はつる・かめで・・・」延命治療はしたくないとの要望があり、かかりつけ医の協力の元で、ターミナルケアに近い経験をしたことはある。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	掛かりつけ医とご家族と相談のうえ、ご利用者・ご家族の要望に、当施設の出来ることの範囲内で、協力させていただいている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	もしご利用者が、病院や他の施設に移転される場合は、適切な情報提供を行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ご利用者は人生の大先輩ということを基本に、接していますし、個人情報厳重に管理している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	当施設の理念の基本は、介護職員はご利用者が今持つておられる、精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台を提供することであり、現時点で十分ではないが、できるだけ実行するよう努めている。	○	ご利用者によっては、ご自分の思いや希望を表現することが不得意な方も居られますが、ご家族の話や生活暦などを参考にしながら、対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	介護職員の数に限りがありますので、十分ではありませんが、朝になれば起きていただく・夜になれば寝ていただくという全体的生活リズムはある程度とっているが、その他はご利用者の要望にできるだけ沿うように努めている。	○	ご利用者の要望に沿えるよう管理者・ケアマネ・介護職員が連携し、臨機応変に対応している。また理容や買い物などの外出も、出来るだけ実行するよう努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご利用者が希望される、なじみの理髪店に散歩をかねて出かけている。ADL低下によりお出かけが困難な方は、出張美容を手配している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者の好みや食べやすさなどを工夫した食事になるよう心がけている。また食材の下ごしらえや調理・配膳及び食後の片付けやおやつ作り、などもご利用者に参加していただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご利用者が望む嗜好品は周囲に悪影響が無い程度に、楽しんでいただいている。 ただし、タバコについては喫煙場所を特定し、喫煙時以外は介護職員がタバコ・ライターを確実に保管している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中は下着、夜間はリハビリパンツもしくは尿取りパットを使用するなど工夫し、日中のトイレ誘導、パット交換はご利用者に合わせた介助を行っている。また衛生を保つために日夜を問わず、陰部あるいは全身清拭などを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご利用者の都合、(たとえば・・水戸黄門など見たいテレビがある)などに合わせて、入浴のお誘いをしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	朝になれば起きていただく・夜になれば寝ていただくという全体的生活リズムは基本的にはありますが、起床時間も就寝時間も個人差が有り、ご利用者に合わせた介助を行っている。昼食後必要とされるご利用者には、短時間の昼寝もしていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	当施設の理念の基本である、ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台の提供を心がけている。ご利用者が意欲や興味を示されること、たとえば食事の下ごしらえやおやつ作りまた食材などの買い物・散歩・園芸や同じ建物内にあるデイサービスへの交流訪問などなど、行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望をご家族に根気強く伝え、ご理解いただいた場合は、実施している。 ただ認知症のため、保管場所が分からなくなり、被害妄想もしばしば起こってしまいますが、プラス面のほうが多いと感じていますので、今後も実施するつもりである。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	地域のお祭り・運動会などへの参加や、ご利用者自身のほしいものや食材などの買い物、散歩、デイサービスへの交流訪問などなど行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	以前に、「お墓参りに行きたい」との要望があり、ご家族に相談するも県外在住のため、忙しくて来れないとの返答であった。そこで他施設の車を利用し、勤務外の職員の同行でお墓参りが実現できた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	絵手紙をご利用者に作っていただき、ご利用者の散歩の途中に投函していただき、ご家族へ郵送した。またご家族よりご利用者に返事が届くような支援をした。 電話も希望があれば、自由に掛けていただけるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	当施設は交通の便が非常に良く、ご家族などが頻繁に来ておられる。そこで来客時には居室でゆったりとお茶を飲みながら、過ごしていただけるよう心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止のマニュアルを作り、介護職員間で徹底し理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	当施設は交通の便が非常に良い場所にあり、交通量が大変多くご利用者単独の外出は非常に危険なため、見守り職員が手薄なときは、玄関のみ施錠している。ご利用者が玄関扉に向かい、外に気持ちが向いたときは、可能な限り、介護職員が同行し散歩などに出かけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中の声かけ、確認、夜間の見守りなどで把握している。また歩行移動時などの事故を防止するため、そのつど声掛け見守りに努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	例えば、火災の原因になりうる、お仏壇のマッチやライターは厳重に介護職員が回収し、必要なときは介護職員の見守りにて使用している。 その他は柔軟に対応していると感じている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ご利用者それぞれに対し、どのように注意すべきか、ミーティングなどでよく話し合い、ほぼ危険予測が出来ている。またもし事故につながりそうな行為に気づけば、介護職員間で情報を共有し、ケアマネが介護計画を作成している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	消防署や看護師などから応急手当や初期対応の講習を、全員が受けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回避難訓練をしていますし、町内の行事に顔を出し、災害時には助けていただけるようお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	当施設の運営理念である、ご利用者の精神的・肉体的能力を発揮していただくためには、多少のリスクが伴うこともご家族に理解していただくよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ご利用者の体調の変化や異変に気づいたときは、かかりつけ医とご家族に直ちに連絡し、速やかに対処している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬に関しては、かかりつけ医の指示に従い、また服薬後の症状の変化もかかりつけ医に報告し、その後の指示も受けていますし、それらのことを詳しくご家族に報告している。また薬のファイルを作り、介護職員間で情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給や適度な運動をしていただくことを心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きや入れ歯の清掃とかみ合わせのチェックなど、口腔ケアに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事や水分補給については，個人の体調や気候、気温に合わせて、摂取量に気配りしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作り、消毒チェックシートを活用している。特にノロウイルス対策は厳重に実施中である。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	キッチンの床その他冷蔵庫、冷凍庫、まな板・などなどの清掃・消毒に気配りしている。	○	引き続き必要に応じて消毒を行い、衛生管理に努めてゆきたいと考えている。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	看板を設置している。 ご利用者が大切に育てているランの鉢植えなどを飾っている。またご利用者が安全に歩行できるよう、昇降機や手すりを設置し、前面道路との段差解消なども行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの壁にはご利用者が書かれた季節の花のイラストなどを飾ったり、お花があるときは、玄関などに活けている。また季節ごとにリビングの飾りつけを変えたり、誕生日会などのパーティの際は、華やかに飾りつけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他に、事務所ソファも共有スペースにしていますので、ご利用者が自由に利用しておられる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の生活暦を理解し、入居時より馴染みの物、たとえば朝夕のおつとめをされる方はお仏壇、嫁入り道具だった鏡台、などの持込みをお願いしている。また気に入っている写真やご家族の写真なども飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節や定期的に換気も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりやスロープを取り付け、個々の身体機能を考慮し、必要に応じて福祉用具等を利用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗などで、ご利用者が自信をなくしそうな場面を招く可能性がある場合は、出来るだけ否定しないで防ぐ努力をしている。	○	わかることや自信のあることを大切にする努力はまだまだ足りないと感じている。これからも意識して続けていきたいと考えている。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前にプランターの家庭菜園を設けていますので、ご利用者に、「何を植えましょう？」と相談して、野菜や花の苗を植えている。また当施設は2階に位置しますので、外出時の階段昇降がリハビリにもなっている。	○	家庭菜園の手入れも、「出来ること」として園芸が好きな利用者に少しお任せしていますが、より発展できればと考えている。